

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02434

研究課題名（和文）近世京都雅文壇における身分的境界領域の人々を中心とした学术交流に関する総合的研究

研究課題名（英文）The Comprehensive study of the academic exchange between people in the boundary area of status in the early modern Kyoto literary world

研究代表者

加藤 弓枝 (KATO, Yumie)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授

研究者番号：10413783

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：まず、小沢蘆庵の自筆家集『六帖詠藻』に登場する約750名の文人たちの和歌賞為を整理し、近世中後期の学术交流の実態を明らかにした。つづいて、禁裏御書物所の書肆・吉田四郎右衛門によって刊行された正保版『二十一代集』の出版背景と版種を解明し、蘆庵ならびにその門弟による歌書収集に関する調査を行うことで近世中後期における書物を介した学术交流を浮かび上がらせた。また、京都女子大学蘆庵文庫に所蔵される非蔵人の学芸活動に関わる資料を検討することで、身分的境界領域にいた非蔵人にとって学芸とはいかなるものであったのか、その一端を詳らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

身分的境界領域の人々の文化的役割の変遷を明らかにする本研究は、美術・思想分野の研究への貢献も予想される。さらには、文学史のみならず、文化史的な意義も少なくない。具体的な本研究の学術的意義や社会的意義は以下の3点にある。(1) 近世文学の特徴の1つである「文芸活動の集団性」の実態を、「学术交流」という視点から具体的に明らかにした点、(2) 堂上・地下のいずれにも属さない中間的身分である境界的領域にあった人々の文化的役割の変遷に着目した点、(3) 膨大に残る原資料について、資料群ごとに悉皆調査を行うという網羅的研究である点である。

研究成果の概要（英文）：First, I summarized the waka poetic activities of approximately 750 writers who appeared in "Rokujyo-eiso" (collection of Japanese poems by Ozawa Roan), and clarified the actual state of academic exchange in the Middle to Late Early Modern Japan. Next, I clarified the publication background and edition type of the Shoho version of the "Nijyu-ichi-daishu" (twenty-one collections of waka compiled by imperial command) published by Shiroemon Yoshida of the kinri-goshomotsu-dokoro (Bookshop to deal with Imperial Palace), and conducted a survey of the collection of poetry books by Ozawa Roan and her students to reveal academic exchange through books in the Middle to Late Early Modern Japan. In addition, by examining materials related to the academic activities of Hikurodo (trainee in the Kurododokoro) in the Roan Collection of Kyoto Women's University, I was able to clarify some aspects of what the academic activities of Hikurodo in the boundary region of status were like.

研究分野：日本近世文学

キーワード：非蔵人 小沢蘆庵 吉田四郎右衛門 地下官人 二十一代集 蘆庵本 歌書

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は本研究を開始するまで、主に近世中後期に活躍した非蔵人と地下官人出身の書肆に注目をし、彼らの和歌営為の現場や出版活動の実態を研究してきた。その結果、公家とも地下とも異なる非蔵人独特の和歌営為の意義や、彼ら独自の学術組織の実態を解明し、さらに地下官人出身の書肆が近世京都文壇に果たした特異な役割の一端を明らかにした。その研究過程で、身分的境界領域の人々が、すでに近世前期から京都雅文壇において重要な役割を果たしていた様相が伺え、各時代によってその役割に変化が生じていることも分かってきた。

2. 研究の目的

本研究は、近世期に身分的境界領域にいた人々(殿上で雑事に従事していた非蔵人や、昇殿の勅許を得ていない官吏・官人等)が関わった出版物や、遺した和歌資料や日記類を調査・分析することで、身分を超えた文化交流の変遷を解明するとともに、その文学史的意義を明らかにすることを目的とした。具体的には、小沢蘆庵や公家の周辺にいた非蔵人や地下官人たちの和歌営為の実態を検証すると同時に、「禁裏御書物所」を担った地下官人の書肆たちによる出版活動の実態を解明することとした。

3. 研究の方法

本研究は主に以下の3つの方法を用いた。

- (1) 京都女子大学蘆庵文庫(新日吉社神官で非蔵人でもあった藤島家伝来資料を所蔵)に所蔵される約1000点の非蔵人文書の悉皆調査を行い、そこから身分的境界領域の人々の学術交流の一端を解明する。
- (2) 禁裏御書物所であり、地下官人でもあった吉田四郎右衛門の出版物を検討することで、身分的境界領域にいた書肆が果たした文化的役割について浮かび上がらせる。
- (3) 1と2のいずれにも関連する歌人小沢蘆庵ならびにその門弟の歌書収集の実態を明らかにすることで、身分的境界領域の人々の周辺の学芸活動の実態、ならびに近世中後期の書物文化史の様相を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 基礎的資料の整理の一環として、静嘉堂文庫蔵『六帖詠藻』(写本、全50巻47冊)に登場する人名整理を行った。当該資料は、江戸時代中期に京都を中心に活躍した歌人小沢蘆庵(1723~1801)による未定稿の自筆家集である。ここでは、上田秋成・伴蒿蹊・橘千蔭・本居宣長・村田春海・妙法院宮真仁法親王をはじめ、当代を代表する歌人や文人たちが登場する。整理の結果、身分的境界領域にいた人々を含む、約750名の和歌営為を把握することができた。その研究成果は蘆庵文庫研究会編『小沢蘆庵自筆 六帖詠藻 本文と研究』(和泉書院、2017年)として公開した。

(2) 禁裏御書物所の書肆・吉田四郎右衛門によって刊行された正保版『二十一代集』(日本で最初に刊行された勅撰和歌集)の出版背景を明らかにした。その結果、勅撰和歌集を吉田四郎右衛門が刊行した背景には、吉田の資金力のみならず、その地下官人としての身分が重視された可能性を指摘した。

(3) 正保版『二十一代集』の版種を明らかにした。従来、本書は刊記に記される通り、正保4年(1647)に吉田四郎右衛門によって刊行されたとされてきたが、正保4年とは十三代集が刊行された年であり、八代集はそれより先行して出版された可能性が高いことを指摘した。また、その書物としての様式の変遷を明らかにすることで、江戸時代における書物の身分についても言及した。なお、正保版『二十一代集』には新古今集の刊記に八尾勘兵衛の名が刻された版があるが、年表と照らし合わせると、刊行したのは勘兵衛ではなく、先代の助左衛門であると考えられることを明らかにすると同時に、八尾助左衛門・勘兵衛・甚四郎の出版略年表を作成し公開した。

(4) 蘆庵本歌合集の伝本調査を行いその実態を明らかにした。蘆庵本歌合集とは、小沢蘆庵が、門弟らとともに安永8年頃から書写校合を行った歌合写本群の総称である。その伝本研究を通して、和歌史のみならず書物文化史における蘆庵本歌書の意義についても明らかにした。主要伝本としては、刈谷市中央図書館村上文庫本・慶應義塾図書館本・今治市河野美術館本・京都女子大学図書館本、龍谷大学図書館本が知られる。これらの伝本が、蘆庵手沢本(刈谷・慶應本)、京女本、龍大本、河野本の順に成立したことや、これらの蘆庵本が古写本収集潮流のなかに位置づけられることを指摘した。

(5) 京都女子大学蘆庵文庫に所蔵される非蔵人の学芸に関わる資料を考察した。例えば、『非蔵人盟約』は、折々に触れて非蔵人たちが提出した誓約書のようなもので、そこには非蔵人として守

るべき事項などが記されている。蘆庵文庫には複数の盟約が保存されており、それらを分析することで、近世中後期の非蔵人たちが心がけていたことや、身分的境界領域にいた非蔵人にとって学芸とはいかなるものであったのかを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 -
2. 論文標題 絵入百人一首の出版：女子用往来物を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 百人一首の現在（青簡社）	6. 最初と最後の頁 210-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金子 馨，長田 和也，中西 保仁，林 知左子，アレッサンドロ ピアンキ，南 清恵，加藤 弓枝，木越 俊介	4. 巻 116
2. 論文標題 シンポジウム「 見せる / 魅せる 近世文学」報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世文藝	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20815/kinseibunsei.116.0_43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 加藤 直志，加藤 弓枝，三宅 宏幸	4. 巻 67
2. 論文標題 くずし字による古典教育の試み（7）：和本バンクを活用した出前授業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/bulsea.67.105	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大谷俊太，山中延之，加藤弓枝，大山和哉，藤原静香	4. 巻 22
2. 論文標題 藤島宗順『詠草留』（安永六年分）解題と翻刻	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文論藻	6. 最初と最後の頁 29-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 434
2. 論文標題 教育現場への古典籍無償貸出プロジェクト「和本バンク」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カレントアウェアネスE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 18
2. 論文標題 名古屋の名所：歌枕とコンテンツ・ツーリズム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 62
2. 論文標題 共同研究のすゝめ：われ以外みなわが師	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文研ニューズ No.62 WINTER 2023	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷俊太, 山中延之, 加藤弓枝, 大山和哉, 藤原静香	4. 巻 35
2. 論文標題 『非蔵人盟約』と『歎歌道之興廃俳諧長歌二首』 解題と翻刻 非蔵人の誠めと戯れ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究紀要 = Journal of the Institute of Religion and Culture	6. 最初と最後の頁 47 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 20
2. 論文標題 江戸時代における私家集享受と『六帖詠草』の編纂 (特集 私家集 和歌と自己語り(エゴ・ドキュメント))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 112 - 127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤直志, 加藤弓枝, 三宅宏幸	4. 巻 66
2. 論文標題 くずし字による古典教育の試み(6) オンライン授業で学ぶ・『伊勢物語』から『仁勢物語』へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要	6. 最初と最後の頁 135 - 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/bulsea.66.135	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸	4. 巻 65
2. 論文標題 くずし字による古典教育の試み(5) 江戸時代の「桃太郎」を読む・補遺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要	6. 最初と最後の頁 204 ~ 209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 19
2. 論文標題 正保版『二十一代集』の変遷 様式にみる書物の身分 (付)八尾助左衛門・勘兵衛・甚四郎出版略年表	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 雅俗	6. 最初と最後の頁 4 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷俊太・山中延之・加藤弓枝・大山和哉・藤原静香	4. 巻 34
2. 論文標題 藤島宗韶詠草紙背文書 繙読 色紙奉行関連資料及び俳諧歌仙一巻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都女子大学 宗教・文化研究所 研究紀要	6. 最初と最後の頁 71～88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 59
2. 論文標題 蘆庵本歌合について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界仏教文化研究所論叢	6. 最初と最後の頁 189～220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 58
2. 論文標題 蘆庵本『寛平御時中宮歌合』再校 神宮文庫との関係を中心に (付) 刈谷市中央図書館村上文庫蔵『寛平御時中宮歌合 / 前麗景殿女御歌合』翻刻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界仏教文化研究論叢	6. 最初と最後の頁 21～44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 6
2. 論文標題 八尾勘兵衛版『源氏物語』小考 無刊記本に刊記が付される時	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鶴見大学源氏物語研究所年報	6. 最初と最後の頁 2～3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 85
2. 論文標題 原装書題簽の版本	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鶴見日本文学会報	6. 最初と最後の頁 1~2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 歌人としての賀茂真淵 出版された家集を中心に
3. 学会等名 第2回賀茂真淵セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 書ををしむならばし 江戸時代における私家集板行と書物観
3. 学会等名 東海近世文学会9月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 百人一首絵入刊本考
3. 学会等名 東海近世文学会10月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 蘆庵本歌合集について 共同研究から見えてきたもの
3. 学会等名 和歌文学会関西4月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 十卷本『京極御息所歌合』と小沢蘆庵 目録に記されていない歌合
3. 学会等名 研究会「歌合の本質とその集積についての研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 蘆庵本歌書の成立 古写本収集という潮流
3. 学会等名 東海近世文学会7月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 妙法院宮サロンにおける絵師と歌人の交流 呉春と蘆庵を中心に
3. 学会等名 絵入本ワークショップ12
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 蘆庵本の歌書について 近世中後期における古写本収集の潮流
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化センター古典籍資料研究プロジェクト研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 正保版『二十一代集』の版種 八尾勘兵衛と吉田四郎右衛門
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 正保版『二十一代集』の変遷
3. 学会等名 鶴見大学日本文学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 禁裏御書物所と勅撰和歌集 出版変遷とその影響を中心に
3. 学会等名 「近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の場」公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 小沢蘆庵の歌書収集
3. 学会等名 龍谷大学仏教文化研究所研究談話会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 出版される家集 静嘉堂文庫蔵『六帖詠藻』を中心に
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 鈴屋集の不思議 家集出版をめぐる謎
3. 学会等名 宣長十講（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 同志社大学古典教材開発研究センター、山田 和人、加藤 直志、加藤 弓枝、三宅 宏幸	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 208
3. 書名 未来を切り拓く古典教材：和本・くずし字でこんな授業ができる	

1. 著者名 藏中さやか・加藤弓枝・浜畑圭吾・大谷俊太・大山和哉・吉田唯・日比野浩信・溝端悠朗・鈴木徳男・中本茜・安井重雄・中村文	4. 発行年 2021年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 456
3. 書名 龍谷大学善本叢書35 蘆庵本歌合集	

1. 著者名 西宮秀紀、木戸久二子、神谷浩、安田篤生、島田大介、加藤定彦、加藤弓枝、熊澤美弓、早川由美、松浦由起	4. 発行年 2020年
2. 出版社 知立市	5. 総ページ数 500
3. 書名 新編知立市史別巻 八橋編	

1. 著者名 加藤弓枝、神林尚子、田口暢之、松本文子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 鶴見大学図書館	5. 総ページ数 28
3. 書名 江戸の出版と写本の文化	

1. 著者名 飯倉洋一・盛田帝子編、藤田覚・大谷俊太・海野圭介・久保田啓一・青山英正・浅田徹・神作研一・加藤弓枝・勢田道生・山本嘉孝・鍛治宏介・一戸渉・合山林太郎・菊池庸介・岸本香織・鈴木淳・山本和明著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 408
3. 書名 文化史のなかの光格天皇 朝儀復興を支えた文芸ネットワーク	

1. 著者名 蘆庵文庫研究会	4. 発行年 2017年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 778
3. 書名 『小沢蘆庵自筆 六帖詠藻 本文と研究』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

鶴見大学源氏物語研究所公式WEBサイト https://genjiken.wixsite.com/tsurumi 古典教材開発研究センター公式WEBサイト https://kotekiriri20.wixsite.com/cdemcjl

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------